

ドイツの Altenpfleger 養成教育課程における修得度評価の法的枠組み —求められるコンピテンシーと試験の実施方法を中心に—

静岡県立大学短期大学部

高 木 剛

I. 緒言

わが国の総人口は、2022年10月1日現在、1億2,495万人である。65歳以上人口は、3,624万人となり、総人口に占める割合（高齢化率）は29.0%となった¹⁾。急速に進行する高齢化により、介護保険制度における要介護又は要支援の認定を受け、施設や居宅で介護サービスを受ける者（以下、利用者という。）は、2025年には606万人、2040年には746万人に達すると予想されている²⁾。

近年、利用者の多様化、複雑化、高度化する介護ニーズに適切に対応するため、介護福祉士にはより高度な専門的知識・技能・態度（以下、コンピテンシーという。）の修得が求められている。しかし、介護福祉士養成教育課程における学生の修得度評価は、その実施・評価方法等を含めて介護福祉士養成施設の判断に委ねられている。介護福祉士養成施設新卒者の国家試験合格率に少なからず差が生じているほか、知識基盤型社会の到来により、「何を教えるか」ではなく、「何ができるようになるか」（中央教育審議会、2008）³⁾が問われている現状に鑑み、介護福祉士としての一定水準の質確保の観点から、段階的にコンピテンシーの修得度を評価するための法的枠組みについて検討を要すると考える。

ところで、わが国と同様に高齢化に伴う介護問題に直面しているドイツでは、2020年1月1日より Altenpfleger、Gesundheits- und Krankenpfleger、Gesundheits- und Kinderkrankenpfleger を統合した新たな介護・看護職（ジェネラリスト）として Pflegefachmann

の養成制度が創設された。その養成制度では、Pflegefachmann の養成教育課程をメインとしているが、これとは別に希望に応じて Altenpfleger 又は Gesundheits- und Kinderkrankenpfleger の養成教育課程を選択することができる。これらの養成教育課程では、訓練生の修得度を評価する仕組みとして学年ごとに学修評価（Leistungsbewertung）がある。それ以外に国家試験（Staatliche Prüfung）及び中間試験（Zwischenprüfung）が法令で定められており、とりわけ両者に求められるコンピテンシーやその実施方法等について明らかにすることは、わが国の介護福祉士養成教育課程における修得度評価に係る検討に資すると考える。

そこで本研究では、わが国の介護福祉士のモデルとなったドイツの Altenpfleger に注目し、国家試験（Staatliche Prüfung）及び中間試験（Zwischenprüfung）で求められるコンピテンシーと、その実施方法等の枠組みを明らかにすることで、介護福祉士養成教育課程における修得度評価の在り方について示唆を得ることを目的とした。

II. 研究方法

本研究では、ハンブルク州における Altenpfleger 養成教育課程に係る文献・資料を使用し、国家試験（Staatliche Prüfung）及び中間試験（Zwischenprüfung）の法的枠組み（求められるコンピテンシー、基本方針、実施方法など）を中心に整理した。なお、使用した主な文献・資料は、以下のものである。

・『LEITFADEN FÜR DIE PFLEGEAUSBILDUNG』

Hamburg Behörde für Gesundheit und Verbraucherschutz, Hamburger Institut für Berufliche Bildung⁴⁾.

- ・ Pflegeberufe-Ausbildungs- und Prüfungsverordnung (PflAPrV)⁵⁾
- ・ Beispielablauf Zwischenprüfung in der Pflegeausbildung⁶⁾

Ⅲ. 倫理的配慮

本研究は各種文献・資料などによるもので、引用にあたっては出典を明記した。

Ⅳ. ドイツにおける新たな資格制度と Altenpfleger 養成で求められるコンピテンシー

従来、ドイツにおいて Altenpfleger、Gesundheits-und Krankenpfleger、Gesundheits-und Kinderkrankenpfleger は、介護、看護の中心的な担い手とされてきた。これらは、それぞれ高齢者介護、成人看護、小児看護を専門分野とし、いずれも国家資格に位置づけられる。本稿で取り扱う Altenpfleger は、わが国の介護福祉士制度創設の際にモデルとなった資格である。

1960年代後半以降、Altenpfleger は各州の法律に基づき社会的支援 (sozial-pflegerisch) の担い手として養成されてきた。しかし、各州によって養成教育に差があり、しかも Krankenpfleger や Kinderkrankenpfleger (いずれも当時の名称) と比べて待遇や社会的評価は低かった。このような格差を解消し、魅力ある資格制度にするため、2003年3月より Altenpfleger は国家資格に格上げされるとともに、「その他の治療職」として、介護のみならず看護を担う専門職として位置づけられた⁷⁾。

しかし、近年、人口動態の変化とともに、Altenpfleger には予防、治療、リハビリテーション、緩和ケア、ソーシャルケアなどの新たな役割が求められるようになった。また、社会情勢が変化する中で、若者の介護・看護職離れが深刻化したことを受け、魅力ある新たな資格制度が必要となった⁷⁾。2020年1月に創設された Pflegefachmann は、Altenpfleger、

Gesundheits-und Krankenpfleger、Gesundheits-und Kinderkrankenpfleger の3つの資格を統合したジェネラリストとして期待されている。高齢者、成人、児童などの属性を超えて介護・看護に跨る幅広い業務を担うため、職域の拡大、雇用機会の増大、新たなキャリアアップの可能性が期待されている。その養成教育は3年間で、理論教育 (2100時間)、実務教育 (2500時間) で構成される。訓練生は2年次修了時に、引き続き Pflegefachmann の資格取得を目指すための養成教育を継続するか、それとも Altenpfleger、あるいは Gesundheits-und Kinderkrankenpfleger の専門分野の学修を深化させ、これらの資格取得を目指すかを選択することができる⁸⁾。

現在、Altenpfleger は新たな資格制度のもとで養成されているが、その修了試験として国家試験 (Staatliche Prüfung) が課せられる。国家試験 (Staatliche Prüfung) は、筆記試験、実技試験、口述試験からなり、これらは Pflegeberufe-Ausbildungs- und Prüfungsverordnung (PflAPrV)⁵⁾ で明示される、5項目 (大項目) に渡るコンピテンシーが求められる (表1)。

Ⅴ. 中間試験 (Zwischenprüfung) と求められるコンピテンシー

新たな資格制度において、中間試験 (Zwischenprüfung) は3年間の養成教育課程のうち、2年次修了時にそれまでの養成教育の修得度を評価するもので、最初の2年間で教授されるコンピテンシーが対象となる⁹⁾ (表2)。また、中間試験 (Zwischenprüfung) の結果に関わらず3年次の養成教育は継続して行われるが、中間試験 (Zwischenprüfung) の結果によって養成教育の修得度が一定水準に満たない場合は、学修成果を確実にするためにどのような措置が必要であるかを介護・看護学校と実務教育を行う施設は訓練生と共に検討し、それを講じることが求められる⁹⁾。

試験結果は所定の用紙 (訓練生用と介護・看護学校用) に記載され、管轄当局に報告される。なお、中間試験 (Zwischenprüfung) の受験は、

表 1. Altenpfleger の国家試験 (Staatliche Prüfung) で求められるコンピテンシー

I. 高齢者介護・看護の必要性(ニーズ)を認識し、急性期及び長期的な介護・看護状況における介護・看護、世話の過程と介護・看護診断を責任をもって計画、企画、形成、実施、管理、評価する
1. 高齢者の介護・看護を責任を持って計画、企画、形成、実行、管理、評価する 2. 健康上の問題がある高齢者の介護・看護を健康増進と病気の予防に特に焦点を当てて、計画、企画、形成、実行、管理、評価する 3. 高齢者の介護・看護の必要性(ニーズ)を見極め、負担が大きく危機的な生活状況にある高齢者の介護・看護を責任を持って計画、企画、形成、実行、管理、評価する 4. 生命を脅かすような状況、危機的状況又は災害状況において、目的に合わせた行動をとる 5. 高齢者の生活形成を支援・補助し、アドバイスする 6. 人生における発達と自律を促す
II. 人指向及び状況指向でコミュニケーションとアドバイスを形成する
1. 高齢者とその介護・看護者とのコミュニケーション、相互作用を人指向及び状況指向で形成し、適切な情報を確保する 2. 高齢者に対する情報提供、訓練、アドバイスを責任を持って企画、形成、管理、評価する 3. 倫理的な観点でよく考えて行動する
III. 様々な組織状況の中で、専門職内、専門職間の行為を責任を持って形成又は共に形成する
1. 異なる資格を持つ者から成る介護・看護チームを構成するにあたり、責任を負う 2. 介護・看護状況において医師の指示を自主的に実行に移す 3. 学際的チームで高齢者の介護・看護状況と治療を協力して行い、互いの接点での一貫性を確実なものにする
IV. 法律、規則、倫理指針に基づいて、自身の行為についてよく考え、根拠づける
1. 様々な施設における介護・看護行為、介護・看護の質を確実なものにする 2. 介護・看護行為における介護・看護状況と組織的関連を考慮し、その場合に経済的、生態学的原則を守る
V. 学問的知識、職業倫理的価値観と立場に基づいて、自身の行為についてよく考え、根拠づける
1. 介護・看護学及び関連学問の認識、倫理原則、職業上の任務に基づいて行動する 2. 自身の個性の発達(生涯学習)と職業上の自己理解に対する責任を負う

(出典) Pflegeberufe-Ausbildungs- und Prüfungsverordnung (PflAPrV) ⁵⁾ より筆者作成

Altenpfleger の 国 家 試 験 (Staatliche Prüfung) を受験する前提となる。

なお、中間試験 (Zwischenprüfung) の具体的な内容及び実施方法等は Pflegeberufe-Ausbildungs- und Prüfungsverordnung (PflAPrV)⁵⁾ で定めるコンピテンシーに基づき、各州で設定・管理する。

VI. ハンブルク州における中間試験 (Zwischenprüfung)

実施の基本方針・方法・手順の概要

ここでは、ハンブルク州で定める中間試験 (Zwischenprüfung) の概要について『LEITFADEN FÜR DIE PFLEGEAUSBILDUNG』⁴⁾ をもとに概観する。

ハンブルク州における中間試験 (Zwischenprüfung) は、筆記試験と実技試験に大別される。筆記試験の時間は120分間で、中間試験 (Zwischenprüfung) の時点で既に修了したか、あるいは現在学修中の最低2つの学修領域で構成される。また、拡大形式の筆記試験が適用される。他方、実技試験の時間は最大180分間で、ケース紹介、介護・看護行為、振り返りの面接等から構成される⁴⁾。

中間試験 (Zwischenprüfung) の計画・準備や進行は、主に介護・看護学校の責任で行われる。実習指導者は、施設内での試験の準備と実行可能性に責任がある。

介護・看護学校は、筆記による中間試験 (Zwischenprüfung) の課題を各自の責任で作成しなければならない。試験の課題と評価基準は、ハンブルク職業訓練研究所 (Hamburger Institut for Berufliche Bildung : HIBB) に提出し、事前に認可を得ることになっている⁴⁾。

1. 中間試験 (Zwischenprüfung) における筆記試験について

筆記試験は、Pflegeberufe-Ausbildungs- und Prüfungsverordnung (PflAPrV)⁵⁾ で定める学修領域 I から V のうち、最低2つの学修分野から出題される (表2)。筆記試験における課題設定は、必ず状況記述及び職業的文脈における学修用の状況設定に従って行う。状況記述及び職業的文脈に

おける学修用の状況設定をもとに、獲得した技能を具体的なケースに応用させる⁴⁾。

試験課題の執筆には、課題内容を明確に指示する動詞 (Operatoren) を使用する。訓練生は、これに先立つ授業で既にこれらの動詞が意味するところを知っていることになっている。作業の重点には、複雑な試験課題の設定が含まれるようにする。選択肢から選ぶ、対応させるなどの作業は認められない⁴⁾。

試験課題は、次の3分野から出題される。出題分野 I (試験課題の約30%) には、学修した状況とその事実関係や知識の描写、再現した状況で練習した業務の技術や方法を記述することが含まれる。また、出題分野 II (試験課題の約50%) には、既知の事実関係について練習経験がある状況における提示された観点から、自主的な選択、整理、処理、表現することと、比較的新しい状況や事実関係において、学修したことを自主的に転用・応用することが含まれる。さらに、出題分野 III (試験課題の約20%) は、複雑な事実関係を目的に応じて処理し、自主的な解決策や企画、判断、結論、理由付け、評価に至ることが含まれる。訓練生は、既に学修した仕事の技術や方法から課題を解決するのに適したものを自分で選択し、新たな問題解決に応用し、自分が行ったことの評価を行う⁴⁾。

なお、筆記試験は100点満点で採点される。期待される解答への点数配分は、評価基準に基づく。評価基準に達しないが、事実関係や形式が正しい解答は正しいものとして採点し、総合点に加算することができる。評価基準の作成は義務化されており、点数は期待される解答に対して適切でなければならない。例えば、事実をただ羅列しただけでは、1点または2点以上は付けられない⁴⁾。

2. 中間試験 (Zwischenprüfung) における実技試験について

一方、実技試験では、Pflegeberufe-Ausbildungs- und Prüfungsverordnung (PflAPrV)⁵⁾ で定める学修領域 I から V に渡って出題される。実技試験は、3回目か4回目の施設訪問の際に行われ、実際の

表2. 中間試験(Zwischenprüfung)で求められるコンピテンシー

(学修領域Ⅰ)

急性期及び長期的な介護・看護状況における介護・看護過程及び介護・看護診断を責任をもって計画、企画、形成、実施、管理、評価する

1. あらゆる年齢層の人々の介護・看護を、責任をもって計画、企画、形成、実施、管理、評価する
2. 健康上の問題があるあらゆる年齢層の人々の介護・看護過程と介護・看護診断を健康増進と病気の予防に特に焦点を当てて、計画、企画、形成、実施、管理、評価する
3. 負担が大きく危機的な生活状況にあるあらゆる年齢層の人々の介護・看護過程及び介護・看護診断を責任を持って計画、企画、形成、実施、管理、評価する。
4. 生命を脅かすような状況、危機的状況、災害状況において、目的に合わせた行動をとる
5. あらゆる年齢層の人々の生活形成を支援・補助し、アドバイスする
6. 人生における発達と自律を促す

(学修領域Ⅱ)

人指向及び状況指向でコミュニケーションとアドバイスを形成する

1. あらゆる年齢層の人々及びその介護・看護者とのコミュニケーション、相互作用を人指向及び状況指向で形成し、適切な情報を確保する
2. あらゆる年齢層の人々に対する情報提供、訓練、アドバイスを責任を持って企画、形成、管理、評価する。
3. 倫理的な観点でよく考えて行動する

(学修領域Ⅲ)

様々な組織状況の中で、専門職内、専門職間の行為を責任を持って形成又は共に形成する

1. 異なる資格を持つ者から成る介護・看護チームを構成するにあたり、責任を負う
2. 介護・看護状況において医師の指示を自主的に実行に移す
3. 学際的チームで、あらゆる年齢層の人々の介護・看護と治療を協力して行い、互いの接点での一貫性を確実なものにする

(学修領域Ⅳ)

法律、規則、倫理指針に基づいて、自身の行為についてよく考え、根拠づける

1. 様々な施設における介護・看護行為、介護・看護の質を確実なものにする
2. 介護・看護行為における介護・看護状況と組織的関連を考慮し、その場合に経済的、生態学的原則を守る

(学修領域Ⅴ)

学問的知識、職業倫理的価値観と立場に基づいて、自身の行為についてよく考え、根拠づける

1. 最新の学問的知識、特に介護・看護学における研究結果、理論、モデルにそった介護・看護行為を行う
2. 自身の個性の発達(生涯学習)と職業上の自己理解に対する責任を負う

(出典) 高木剛 (2021)「介護福祉士養成教育課程における修得度評価に関する研究 (第1報) - ドイツの現状から中間試験の意義と実施の可能性を探る」『社会事業研究』第60号, 64-73より再掲 (一部抜粋)

介護・看護状況での全面的な介護・看護行為として考えられている。そのため実技試験は自主的で包括的で順序立った介護・看護行為で構成される。その結果は、評価基準に基づき採点される⁴⁾。

実習指導者は各訓練生に対し、実技試験の1週間前に（可能であれば）要介護・看護者2名を割り当て、担当のチームリーダーに試験の日程を伝える。要介護・看護者の選定においては、常に訓練生の技能進度に合った包括的な介護・看護状況を示すことができるように留意する必要がある。中間試験（Zwischenprüfung）自体はこれに対応して、実際の包括的な介護・看護状況で行われる。また、実習指導者は、試験前準備期間の1週間は、選定された要介護・看護者2人について、次のような情報が試験日に揃っているようにする⁴⁾。

- ・診断と可能な介護・看護方法
- ・要介護・看護者の同意書
- ・介護・看護事業責任者の合意証明書

訓練生については、選定された要介護・看護者の介護・看護行為と、それぞれの介護・看護記録を実技試験の当日も含めて記載する責任がある⁴⁾。

訓練生は、包括的で一人ひとり違う介護・看護の必要性を調査し、介護・看護計画を立案し、必要な介護・看護行為を実践し、介護・看護過程を評価し、コミュニケーションをとり介護・看護行為の質を確保し、この枠内で流れに沿った介護・看護行為で起こるすべての課題を引き受ける中で、獲得した技能を示す⁴⁾。

中間試験（Zwischenprüfung）は、事前に作成される文書による介護・看護計画（準備の部）、最大30分間のケース紹介、計画され状況に合った介護・看護行為、そして振り返りの面接からなる。なお、実技試験は準備の部を除き、ケース紹介と振り返りの面接を含めて180分間を越えてはならない。また、運営に関連して最大1日の休止期間を入れることができる。

試験は専門の試験官（教員）と実習指導者が共同で行い、成績を付ける⁴⁾。

3. ハンブルク州における中間試験(Zwischenprüfung)の実施方法及び手順の一例について

Beispielablauf Zwischenprüfung in der Pflegeausbildung⁶⁾をもとにハンブルク州における中間試験（Zwischenprüfung）実施方法及び手順の一例を概観する。

試験初日においては、実習指導者は試験のために要介護・看護者を選定し、試験課題を含めた必要書類を試験開始までに用意する。訓練生は、試験初日に研修施設において上記の指示に沿って試験課題を完成させる。その際に実習指導者はこれを監督し、試験初日の報告書を作成する。また、訓練生が他者の力を借りずに自力で文書を作成することを保証する。なお、試験開始前に、実習指導者は訓練生の健康状態について質問し、不正行為の試みや課題提出の遅れなどの義務違反は試験の無効に繋がることを告げる。訓練生に対する試験課題の指示は、実習指導者によって行われる⁶⁾。

訓練生は、試験開始から2時間以内に、試験の進行に合った手書きによる最新の介護・看護計画を指示された基準に従って作成する。これには、次の項目を含むことができる。

- ・簡略な経歴（Kurzbiographie）／一般的データ（allg. Daten）／既往症（Anamnese）
- ・診断と投薬（Diagnosen und Medikamente）
- ・情報収集（Informationssammlung）
- ・部分的介護・看護計画（Teilpflegeplanung）（それぞれ講じるべき対策に沿った内容）
- ・試験内での介護・看護進行計画（Prüfungsablaufplanung）

介護・看護記録は利用しても良い。試験時間終了後、訓練生は実習指導者に作成した文書（「下書き用紙」なども含む）を提出する。訓練生は、介護・看護学校からの資料を試験開始前に間に合うように揃え提出する⁶⁾。

試験2日目においては、訓練生は前日に作成した文書を渡され、これを基に要介護・看護者に介護・看護計画を説明する（表3）。訓練生は、自己の判断により文書を補足する説明を口頭で、追加資料なしにすることができる。試験委員会は、これに加え具体的な流れについての理解を助けるための必要な質問をすることができる。

表3. 中間試験(Zwischenprüfung)の実施方法の一例

試験区分	主な実施内容	評価
筆記試験 (120分間)	訓練生は、試験委員会が選んだ要介護者の介護・看護計画を、指定された基準に従って立案する。 (選択肢から選んで解答するような課題設定は不可)	評価基準に基づき、100 点満点で採点される。
実技試験 (180分間)	訓練生は、立案した介護・看護計画に基づき、要介護・看護者に対して介護・看護行為を実践する。実践後は振り返りをして、その内容を記録する。その後、その内容を試験委員会との面接で説明し、質疑応答する。	評価基準に基づき採点される。

その後、介護・看護職員から訓練生に要介護・看護者を引き継ぐ。訓練生は介護・看護記録を確認した後、介護・看護計画に沿って介護・看護行為を実践する。これには準備とフォローアップも含まれる。訓練生は実践した介護・看護行為の記録を付ける。記録は実技試験の評価に反映される。そして、訓練生から介護・看護職員に要介護・看護者を引き継ぐ⁶⁾。

要介護・看護者を介護・看護職員に引き継いだ後、訓練生は実践した介護・看護行為について振り返りシートを使って検証する。これには10分間を与えられる。訓練生は、振り返りの結果を試験委員会の前で発表する。その後、試験委員会は、試験の内容について、例えば採用した介護・看護行為についての専門的根拠など、さらに深く掘り下げる質問をすることができる(表3)⁶⁾。

その後、試験官(教員)と実習指導者の間で評価についての意見交換をする。そして、評価シートを使って個別に点数を付ける。

VII. わが国の介護福祉士養成教育課程における修得度評価への示唆

前述のとおり、ドイツの Altenpfleger 養成教育

課程では、国家試験(Staatliche Prüfung)とは別に、2年次修了時に中間試験(Zwischenprüfung)が課される。中間試験(Zwischenprüfung)の結果に関わらず養成教育は継続されることから、当該試験は(強いて言えば)わが国における模擬試験に匹敵すると思われる。しかし、それとは大きく異なる特徴がある。

第一に、中間試験(Zwischenprüfung)は法的に位置づけられている(わが国の模擬試験は法的に位置づけられていない)。第二に、中間試験(Zwischenprüfung)は筆記試験と実技試験で構成されている(わが国の模擬試験は筆記試験で行われる)。第三に、中間試験(Zwischenprüfung)は国家試験(Staatliche Prüfung)を受験する前提条件となる(わが国の模擬試験は国家試験(Staatliche Prüfung)を受験する前提条件ではない)。第四に、中間試験(Zwischenprüfung)の内容は専門職としてのコンピテンシーを主眼としている(わが国の模擬試験ではコンピテンシーが専門的知識に限定される傾向がある)。第五に、中間試験(Zwischenprüfung)の実施に際して教員と実習指導者が協働する(わが国の模擬試験では教員と実習指導者が協働しない)。そして第六

に、中間試験（Zwischenprüfung）終了後に訓練生に対して学修支援が求められている（わが国の模擬試験では学修支援を必修としていない）である。

わが国の介護福祉士に求められるコンピテンシーが明確でない中で、「何を教えるか」ではなく、「何ができるようになるか」という問いに向き合わなくてはならない。介護福祉士に求められるコンピテンシーを計画的、かつ効果的に学生に修得させるためには、求められるコンピテンシーを明確化するとともに、ドイツの中間試験（Zwischenprüfung）のように、コンピテンシーに主眼を置いた修得度評価が不可欠だと考える。そこでは、単に専門的知識を問うのではなく、専門的技能や態度を包含した基礎的・応用的な課題が求められる。そのような観点から捉えると、介護福祉士養成教育課程における修得度評価の在り方を模索するうえで、ドイツの中間試験（Zwischenprüfung）の取り組みは参考になると考える。

VIII. 結言

本稿では、わが国の介護福祉士制度のモデルとなった、ドイツの Altenpfleger 養成について、国家試験（Staatliche Prüfung）及び中間試験（Zwischenprüfung）で求められるコンピテンシーとその実施方法などの法令上の枠組みについて『LEITFADEN FÜR DIE PFLEGEAUSBILDUNG』Hamburg Behörde für Gesundheit und Verbraucherschutz, Hamburger Institut für Berufliche Bildung⁴⁾などの文献・資料をもとに整理した。

その結果、Altenpfleger 養成教育課程における国家試験（Staatliche Prüfung）及び中間試験（Zwischenprüfung）で求められるコンピテンシーは学修領域Ⅰ～Ⅴに渡っており、国家試験（Staatliche Prüfung）では、それぞれ、「高齢者介護・看護の必要性（ニーズ）を認識し、急性期及び長期的な介護・看護状況における介護・看護、

世話の過程と介護・看護診断を責任をもって計画、企画、形成、実施、管理、評価する」、「人指向及び状況指向でコミュニケーションとアドバイスを形成する」、「様々な組織状況の中で、専門職内、専門職間の行為を責任を持って形成又は共に形成する」、「法律、規則、倫理指針に基づいて、自身の行為についてよく考え、根拠づける」、「学問的知識、職業倫理的価値観と立場に基づいて、自身の行為についてよく考え、根拠づける」が設定されている。他方、中間試験（Zwischenprüfung）では、それぞれ、「急性期及び長期的な介護・看護状況における介護・看護過程及び介護・看護診断を責任をもって計画、企画、形成、実施、管理、評価する」、「人指向及び状況指向でコミュニケーションとアドバイスを形成する」、「様々な組織状況の中で、専門職内、専門職間の行為を責任を持って形成又は共に形成する」、「法律、規則、倫理指針に基づいて、自身の行為についてよく考え、根拠づける」、「学問的知識、職業倫理的価値観と立場に基づいて、自身の行為についてよく考え、根拠づける」が設定されている。また、これらにはそれぞれ更に細かなコンピテンシーが設定されていることが明らかになった。

また、中間試験（Zwischenprüfung）の特徴として、①法的に位置づけられている、②筆記試験と実技試験で構成される、③国家試験（Staatliche Prüfung）を受験する前提条件となる、④内容は専門職としてのコンピテンシーを主眼としている、⑤実施に際して教員と実習指導者が協働する、そして⑥終了後に訓練生に対して学修支援が求められていることが明らかとなった。

わが国の介護福祉士養成教育課程における修得度評価では、単に専門的知識を問うのではなく、専門的技能や態度を包含した基礎的・応用的な課題が求められる。そのような観点から捉えると、介護福祉士養成教育課程における修得度評価の在り方を模索するうえで、ドイツの中間試験（Zwischenprüfung）の取り組みは参考になると考える。

<引用文献>

- 1) 内閣府（2023）『令和5年版高齢社会白書』日経印刷. 1.
- 2) 厚生労働省「介護保険利用者数の推移及び見通し」
(<https://www.mhlw.go.jp/stf/wp/hakusyo/kousei/19/backdata/01-01-09-06.html>)（2023年2月1日閲覧）
- 3) 中央教育審議会（2008）「学士課程教育の構築に向けて（答申）」8.
- 4) 『LEITFADEN FÜR DIE PFLEGEAUSBILDUNG』Hamburg Behörde für Gesundheit und Verbraucherschutz, Hamburger Institut für Berufliche Bildung.
- 5) Beispielablauf Zwischenprüfung in der Pflegeausbildung (<https://www.koordinierungsstelle-pflegeausbildung-sh.de/infothek/zwischenpruefung/>)（2023年3月5日閲覧）
- 6) Ausbildungs- und Prüfungsverordnung für die Pflegeberufe (Pflegeberufe-Ausbildungs- und -Prüfungsverordnung - PfAPrV) vom 2. Oktober 2018.
- 7) 高木剛（2015）「ドイツにおける新たな介護・看護人材養成制度の導入に向けた動き－連邦集ワーキンググループによる報告書（草案）を中心に」『介護福祉教育』20（2），72-78.
- 8) 泉眞樹子（2017）「ドイツ 看護介護職を改革する法律」『外国の立法』10-11.
- 9) 高木剛（2021）「介護福祉士養成教育課程における修得度評価に関する研究（第1報）－ドイツの現状から中間試験の意義と実施の可能性を探る」『社会事業研究』60，64-73.

<参考文献>

- ・池森康裕・他（2018）「介護福祉学教育における修得度評価作成の試み—OSCE実施の効果と課題」『北海道医療大学看護福祉学部紀要』25，45-51.
- ・横山さつき・他（2015）「介護福祉士養成課程における介護技術習得度に関する研究（第2報）. 中部学院大学・中部学院大学短期大学部研究紀要」16，67-78.
- ・Gesetz zur Reform der Pflegeberufe (Pflegeberufereformgesetz -PfBRefG) vom 17. Juli 2017.
- ・Schulungszentrum für Altenpflege (SFAP) のホームページ
(<https://sfap.de/ausbildung.html>)（2020年7月6日閲覧）
- ・Bundesinstitut für Berufsbildung: Pflegeausbildung aktuell - Modern, vielfältig und zukunftsfähig（2020）.
- ・Ausbildung Pflegefachfrau und Pflegefachmann（ハンブルク州のホームページ）
(<https://www.hamburg.de/altenpflege/121814/pflegefachfrau-pflegefachmann/>)
（2023年8月1日閲覧）